



10月の園だより



令和5年10月2日
目黒区立鷹番保育園園長

さわやかな秋の空に心まで透き通るようです。鷹番保育園ラストイヤーも半年が過ぎました。新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受け、ようやく「保育園の通常」が戻ってきて異年齢保育や他園との交流等行っています。リズム遊びでは年下の子が見ていることで、年長児は背筋を伸ばしたり、指先まで意識して動かしたりしています。そんな年長児をよく見ている1,2歳児は、同じようにやってみようがんばっています。遊びに来た他園の保育士も熱心に、どんな風にリズム遊びを行っているか見学したり子どもたちと一緒に参加したりしています。地域の他の保育園ともこのように子どもの交流だけでなく、大人も保育交流を通して互いに学び合っていく機会を増やしていきたいと思えます。

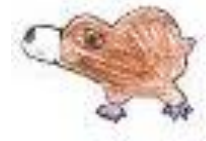
運動会が近づいてきました。思い返せば今年の運動会が終わるや否や、5歳児の縄跳びを真似て練習を始めていた4歳児（今年の年長）でした。5歳児の姿はそれほどの魅力があったのでしょうか。今でもしっかりと記憶に残っているようです。今年はそんな年長児の姿にあこがれる4歳児はいません。それでも1,2歳児、そしてたくさんの観客の記憶にしっかりと刻まれていくことでしょう。当日が楽しみなことは間違いありませんが、運動会を経てまたひとつ大きく成長する姿が楽しみで仕方ありません。

戸外が気持ちよいこの季節、秋の自然に触れながら思い切り体を動かして、散歩や園庭遊びを存分に楽しみたいと思えます。

行事予定



定期健診
運動会（全園児）
芋掘り遠足（5歳児）
身体計測
避難訓練



子どものつばやき、ほのぼのエピソード

あんパンや食パン、クロワッサンなどいろいろなパンがでてくる手遊びをしていた時のことです。「どのパン食べる」と子どもたちに尋ね「あんぱん」「クロワッサン」と言っていた子が次に尋ねると「お味噌汁」と元気よく答えてくれました。普段の給食のメニューのイメージでしょうか。子どもたちの発想になんだかほっこりして笑ってしまいました。
(2歳児クラス)

ホールで兄弟すすめのリズムを行った日。クラスに戻ってからも楽しそうに歌を口ずさんでいた子が「きりん組のお米も兄さんすすめに食べられないように、かかしを作らないとね」と言っていました。「兄さんすすめはお米好きー」という歌詞があるのでそう思ったのですね。可愛らしいつばやきに気持ちがほっこりしました。
(5歳児クラス)

調理さんが持ってきてくれたアゲハチョウの幼虫を観察していた子が「先生見て。2段ベットで寝ているよ」とニコニコしながら教えに来てくれました。虫かごを覗いてみると上下2枚の葉の下に一匹ずつ幼虫がじっとしていました。「下の幼虫がちょっと重そうだね」と上にいる幼虫の重みで葉が下にいる幼虫の背中に当たっているのを気にかける姿もあり、色々な思いを巡らせているのだなと感じました。
(5歳児クラス)



運動会に向けて



「見てもらう」

1・2歳児クラス

リズム遊びが大好きで「次、とんぼがいい」「クモやりたい」と言ったり、カメのポーズをやってみせて自分の好きな動きを保育士にリクエストしています。馬の動きのときは、途中で人参を食べる真似をしたり、ザリガニポーズを決めるときには怒ったような表情で両手をハサミにしてなりきっています。きりん組と一緒にリズム遊びをしてからは、きりん組のかっこいい姿を思い出しま先立ちをしたり、顔をぐっと上げる等、細かい動きも意識し「こうでしょ」と得意顔です。「お馬さんの足が出来るの、凄いね」と、ギャロップをしている子に声をかけると、「私もできる」と言うように張り切る子どもたちの姿がありました。「とっってもかっこいいから、運動会でみんなに見てもらおうか」と保育士が言うと「パパに見せる」「お兄ちゃんに見てもらう」と、さらに張り切って身体を動かしています。動物になりきって楽しむ中で、細かい動きもできるようになり、見てもらったり、ほめられることが自信となりさらなるやる気につながっているようです。



「みんなでちからをあわせて」

5歳児クラス

日頃から楽しんできた運動遊びの中で、短縄は特に一人ひとりが自分の目標を持ち、毎日繰り返し跳ぶことに夢中になってきました。ホールや廊下で跳んでいる姿を色々な大人にも見てもらいながら、沢山認められて自信がつき、夏頃には運動会に向けてかっこいい姿を見せられるようになりたいという気持ちで取り組むようになりました。「10回跳べたよ、次は30回跳びたい」と、跳べる回数を増やしていったり「あとどんな跳び方がある」と、色々な跳び方にも興味をもって挑戦していた子どもたちです。「自分ではできないからやらない」と、気持ちが向いていなかった子も、コツを掴むと跳ぶことが楽しくなり、引っ掛かりながらも諦めずに跳ぼうとする姿に変わっていききました。同じように近くで頑張っている友達の姿を見て、自分も頑張ろうという気持ちになったようです。そして、初めて100回を超えて跳べた日は、そばで見っていた友達も一緒になって嬉しそうに保育士に報告する姿があり、自分のことのように喜んでいました。「すごく上手になったよね」「すごいじゃん」という友達からの誉め言葉は、子どもたちにとって何よりの励みになり、次への目標が持てる自信となっていました。

日々の中で一人ひとりが自信を持ち、友達と認め合う姿も増えてくると、ぶち合わせ太鼓などでも「みんなしっかり口伝を言っていた」「みんなで揃っているとかっこいい」と、友達を意識しながら合わせようとする姿が見られるようになってきました。そして「運動会はみんなで力を合わせて頑張りたい」という気持ちが出てきています。練習中、時には友達に対して厳しく「ちゃんとやろうよ」と声をかける姿もあります。一人ひとりが頑張る姿が、みんなで頑張る姿に変わってきている子どもたちの姿を運動会ではぜひ楽しみにして下さい。

